

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	タクシー運転手	単価の動き	・大きなイベントが多く、利用客が増加した。
	変わらない	スーパー（店 長）	販売量の動き	・8月の前半は猛暑のために、夏場の商品、飲料関係を中心によく売れたが、お盆の期間が長かったため、ピークがなく、全体では販売量が伸びなかった。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・クリアランスセールとお盆の影響で、売上は前年並みで推移した。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・お盆休みとガソリン価格の高騰で、客自体がお金を使うことにちゅうちょしている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・愛媛県下の軽自動車の登録件数は7月に19ヶ月ぶりに前年比を上回ったが、長続きせず8月も同96%と前年を割り込み、登録車を含む総市場では同90%と非常に悪い。そんな中、当社は商品力で同105%と伸ばす事が出来ているが、客の動きが非常に不安定である。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・松山・道後は、「坂の上の雲」プロジェクトや道後温泉周辺の整備により、ある程度にぎわいもあり、日帰り客は増えているが、宿泊客が伸びない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・夏休み期間中の旅行の申込みは前年と比べて低調であった。毎年家族連れでの申込みが多い海外旅行が燃油サーチャージの影響で特に少なかった。その分、都心のテーマパーク、北海道、近畿、山陰の温泉など国内旅行が多かったため、国内の航空券の売上は前年と変わらなかった。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・新規加入勧誘時に費用面での理由で断られることが多い。
	やや悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・郊外に大型ショッピングセンターが開店した影響で、来客数が減っており、売上に影響が出ている。ガソリンの値上がりも多分に影響している。
		商店街（代表者）	それ以外	・飲食店中心に新規出店が見られるが、夏物が終わった後の物販店の撤退が顕著になっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・百貨店を含む小売業界は主力の衣料品が最も厳しい。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	単価の動き	・今年はお盆休みを長く取れる人が多く、売上増加を期待していたが、前年より1割程度悪い。1,000円以上の物が売れていない。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	単価の動き	・単価の低い商品の売行きも良くないが、単価が1,500円を超える商品の売行きは非常に悪くなっている。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・前年同月に比べ売上、来客共に下回った。ファッションパーツ等の夏対策商品が好調に推移した。紳士及び婦人衣料品も同じような傾向が見られた。ファッション性の強い商品は前月同様に苦戦した。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・オリンピック期間中は、家でテレビを見る人が多く、人があまり動かなかったということもあるが、オリンピックが終わり、夏物の最終処分でも、客は余計なものは買わず、厳しい状況であった。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・処分価格であってもよく吟味し、必要最小限しか購入せず、まとめ買いや衝動買いは極端に減少している。また特価品であっても、返品や取替えが増えている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・惣菜だけが好調である。7月以降の猛暑で飲料、ビール、アイス等は前年並みに売れたが、全体では客数の減少が継続している。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・ガソリン高の影響により大型商業施設の来客数が落ちている。逆にガソリン補助キャンペーンがニュースに取り上げられる状態である。
スーパー（財務担当）		単価の動き	・すべての商品が価格上昇傾向にあり、購買意欲が減少している。その結果、1人当たりの買い上げ点数が減少しており、全体の売上が減少している。	
衣料品専門店（経営者）		販売量の動き	・夏物セールは相変わらず単品買いが多く、客単価、売上高で前年を下回るペースで推移している。同時に秋物を立ち上げているがセール以上に低調である。	

	家電量販店（店長）	販売量の動き	・先月から、買上客数が昨年の5%から10%下落している。
	家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・来客数が前年に比べ減少気味である。また、購入数も1点のみという客が相当数を占めている。テレビは価格に手ごろ感が出てきてよく売れているが、他の物は買い控えしている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・8月の県内自動車登録台数は前年比大幅減少した。
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・ガソリン価格の高騰が販売量及び販売車種に大きく影響している。販売量も減少し、車種も軽自動車へと流れており、普通乗用車しか扱わないカーディーラーとしては、非常に苦しい。
	乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・商談が非常に減少している。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・7月までは小売価格の上昇に対し、買物には来るが、買上点数を控えるという傾向であったが、8月以降は大手の出店の影響もあるが、更に買物を控える傾向が見える。
	通信会社（支店長）	単価の動き	・景況感悪化の最大の理由は、原油価格の高騰であり、企業によってはコスト増を販売価格に十分転嫁できないことによって収益が圧迫され、また一部の値上げが家計の負担を更に増大させている。
	通信会社（管理担当）	販売量の動き	・販売数はもとより、来店者数も減少傾向にある。市場全体でも目新しい動きはない。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客数は前年並みだが、節約型になっている。
	設計事務所（職員）	お客様の様子	・公共事業自体が大幅に縮減される傾向が一段と強まっている。特に県・市町村では著しい。仕事がなく、あっても低価格競争で利益も出ない状況である。建設業の倒産が多く、行政機関等の政策変更がされないなかで、景気は更に悪くなっている。
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客は物価が高騰し始めた頃から生活防衛に入っている。
	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・飲食店の雰囲気良くない。客足が少なく元気がない。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・1年の売上でピークを向かえる8月も毎年前年実績に届かない結果が定着している。
	スーパー（店長）	単価の動き	・食料品は値上がりしているのに、単価が前年と同じか低下しているケースがある。客は生活防衛に入っており、前年より2ランク以上、価格の低い商品を買っている。
	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	来客数の動き	・原材料高騰により販売単価を上げたために、客単価は上がったが来客数が減少した。
	都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・客との話のなかで、「不景気だ」や「どこまで落ちるんだろう」というような内容が多く、それに伴い、来客数、客単価が低迷している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・本来、暑い時ほどタクシーに乗るが、今年の夏に限っては客が減っている。すべての物が値上げのなかで、タクシー代も節約している。1・2時間待って、やっと乗ってもらっても近いところが多く、全体に売上が上がらない。夜も飲みに出ている人が少ないので、2時間ぐらい待っても1,000円以下で、苦しい状況である。
	タクシー運転手	お客様の様子	・今月はよさこい祭りやお盆の帰省など客の動く要因があったが、売上は下落した。また、客の反応も良くない。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・原油高や物価高で、マイカーで来る客がかなり減っている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・営業努力でかろうじて客単価の維持はできているものの、来客数の伸び悩みが続いており、厳しい状況である。
企業動向関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-

変わらない	食料品製造業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・原料の高騰が続いており、非常に厳しい。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注残を抱えており、その消化により前年並みの売上は確保できた。
	通信業（営業担当）	それ以外	・営業活動で法人を訪問しても個人消費に対する明るい話題がまったく無い。大型量販店、スーパーの管理者層からは、「個人消費の防衛意識が強まっている」「イス・テーブルなどの修理の問合せが増えている、買換えず修理し使用する節約意識が高まっている」「昼食を外食から弁当持参にする社員が増えた」などの話題が出ることが多い。
やや悪くなっている	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・西日本地区では、地場の土木・建設業者の倒産が続いており、建設業界の景況は悪化している。それを受けて中小のクレーン業者・運送業者の廃業も続出している。クレーンを販売できるユーザー層が絞られてきている。
	建設業（経営者）	取引先の様子	・同業者や取引先で手形が落ちるとか落ちないとかいう話が多くなった。また、現実には倒産する業者も多くなった。
	輸送業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・物流合理化策による受注単価の下落に加え、原油高を主とした原材料費の高騰で、収益率の低下が著しい。
	輸送業（支店長）	競争相手の様子	・原油価格の高騰や大都市圏の経済停滞・低迷の影響で地方経済の低迷に拍車がかかり、購買力の低下で荷動きが2桁台に迫る落ち込みとなっている。
	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・販売数量が低下傾向にある。また、高額商品よりも低価格の商品への志向が強まっている。
	不動産業（経営者）	取引先の様子	・同業者との会話の中で、「広告やチラシを打っても全然反響がない」「オープンハウスをしても客が来ない」という状況がみられる。
悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物価高の影響で、全体的に受注が落ちている。計画通りに売上が伸びない。
	建設業（総務担当）	それ以外	・悪意にしている税理士によると、「平成20年1月から6月までの決算が終了したが、赤字企業が大半を占めており、実質黒字決算の企業は少数である。特に建設関連企業の赤字幅が拡大している」とのことであった。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・土木関連事業を中心に倒産件数が非常に増加している。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の関与先の決算状況や試算表を見てみると、前年と比べて一段と悪化している。特に資金繰りの悪化がひどい。今月に入ってから、すでに倒産が何件か出ており、景気は一段と悪化している。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人需要は低調であるが、お盆時期に開催した就職・転職のイベントは転職希望者の動員も多く好評であった。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は2,251人で、前年同月と比べて12.2%の減少であった。下げ幅は前月と比べ、10.5ポイント縮小したものの、前年割れは前年9月より11か月連続となっている。また、3か月前の求人数は2,206人と、ほぼ同数となった。
やや悪くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・案件依頼数が前年同月比で2割減少した。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年比で減少を続けており、非正規型雇用の求人までも減少に転じた。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人倍率は、3か月前と比べて0.02ポイント減少し、0.69倍となった。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・土木関係の自営業者や建設業界の現職の人の登録が増えてきた。自営業者は事業の廃止、建設業界の現職の人は会社の先行き不安などが登録の理由である。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・本大学の学生への求人数、求人件数が減少している。

	悪く なっている	新聞社 [求人広 告] (担当者)	周辺企業の様子	・ 建築関係では12月までの受注件数がほとんどないと の声が多い。家具関係も良くないが、最近家は新築 しても家具を新しく購入する人は少ない。
--	-------------	--------------------------	---------	--